



矢島 渚男 選

愛の字をつけし兜を飾りけり

霧島市 内村としお

【評】十数年前にNHK大河ドラマで上杉景勝の重臣で文武に秀でた直江兼続が話題になった。兜の前立が「愛」だったからだ。彼は学芸の方面でも、『漢書』などを集めた。子供の言葉をあやして姉らしく

東佐野市 布野 寿

【評】第一子について第二子が生まれた。見てみると幼いのにきょうだいをあやしている。やれやれ、一安心。

山梨県 一瀬 利彦

【評】上五が巧い。子供を連れてた若い父親の心境。親しく行動する仕方から分らない。自分も子供に帰って自然に遊ぶことだろうか。

高崎市 長友 聖次

二雨の薄日に光る猫柳

向日市 福岡 猛

波の音の気怠き問答春の磯

福岡市 中山洋治朗

桜蔭降り先生も渾名つく

南房総市 山根 徳一

生き残るものの責任春の海

葛城市 二上 三六

もう一杯いやいや御免かき水

仙台市 石川 初子

湯沢市 横山 健一

高野ムツ才 選

青嵐空飛ぶ車現れさう

神戸市 山口 誠

【評】「空飛ぶクルマ」は大阪・関西万博の目玉の一つだが、「空飛ぶ車」から古代インド神話の飛行車や『田村三代記』の光輪車も想像できる。青嵐の中、時空を超えて現れるならそれらの車の方がよさそう。

大分市 加藤 元二

【評】街角の人気ラーメン屋あたりを想像したい。「行列の列」とわざわざ強調したところがユーモラス。手のひらを開けば落花寄り来たり

宇部市 伊藤 文策

【評】手のひらにまたまた花びらが降ってきたのだが、花びらの意志で落ちてきたかのような意図。いや、本それ自体の指図と解するべきか。戦死せし父を語るも昭和の日

香川県 福家 市子

石楠花や泣きだしさうな雲の来て

青森市 青柳 富也

春泥に轍一本暮れ残る

東大阪市 土屋 鉄男

行く春の岬の鼻といふところ

神奈川県 中島やさか

雪解川細るとみせて太りくる

東京都 望月 清彦

煩悩は生きぬくかきり蠅生まる

越谷市 安居院半樹

竜天に登りタム湖の蒼き水

春日部市 西 智恵子

正木ゆう子 選

星おぼろ七曜に無き地球の名

吹田市 小森 孝敏

【評】日曜の太陽から、土曜の土星まで、すべて太陽系の天体。それなら地球という曜日があってもよさそう。七曜はどのように決まったのか、そもそもなぜ七日区切りののか。春の月夜をもためたあて

西宮市 平田 あい

【評】感情豊かな大でも、悲しみに涙を流すことはないらしい。悲しい・寂しいという思いはあるはずだけれど。彼らはじつと耐えるのみ。雨上がり雀隠れの匂ひ立つ

和歌山市 針谷 国光

【評】雀隠れとは、雀が隠れる位の丈になった若草。日常使う言葉ではないが、毎年その頃になると、なんとびつたり可愛い命名かと思う。春愁といふ婚約の余韻かな

志木市 谷村 康志

茹で汁も走りの蔵蔵かりけり

大阪府 池田 寿夫

季語と知り待ちわびし桜蔭降る

奥州市 境 朝子

花三様てんてんてまりてんてまり

町田市 鯉淵 洋子

ともかくもブルアンウィーク過ぎて

横浜市 我妻 幸男

登校班の静かなりけり新学期

座間市 佐藤 一子

畑ゆえ詫びつつむしるホトケノサ

大津市 山下 節子

小澤 實 選

ラブホテルの屋根に地球や夏めける

京田辺市 加藤 草児

【評】ラブホテルの屋根の上に地球の巨大な模型が乗っている、それに夏らしさを感じているのである。唐突であるが、それが確かにその種のホテルらしくもあるのだ。大岩魚その胃の腑より出でしもの

高山市 直井 照男

【評】釣り上げた大岩魚の腹を開いて、胃の中身を確かめると想像を越えたものが出てきた。蛇とか、蠶か。書かないことが想像をかきたてる。大電球揺らし鳥賊船帰る来る

下田市 森本 幸平

【評】大電球が鳥賊船らしい。たぐさんの大電球を灯し鳥賊を寄せて、釣り上げて来たのだ。港に帰って来たのは朝、電氣は消して戻ったわけだ。夏山やリュックの上にシャツを干し

守谷市 久保田洋二

アスファルト割れてたんぼば過疎の村

横濱市 吉野 暢

石楠花や屋久杉の森仄暗く

日立市 菊池 風峰

鉢巻のぬいメーデー家族連れ

倉敷市 中路 修平

子燕の口に押し込む大き餅

神戸市 岸下 庄二

ボランティアは単位のためと山背風

松江市 三方 元

チョコまぶす棒のスナック遠足に

甲府市 村田 一広

俳句あれこれ 津川絵理子 (俳人)

俳句の道草 ④

能楽で使われる笛、能管を習っている。まだ三年目の初心者だ。もともと能のお囃子が好きで始めたのだが、笛の奥深さに日々驚かされている。

笛と俳句は似ているところがある。まず毎日稽古(作句)でできる。その間は無心でいられる。もちろん違いもある。俳句は風邪をひいても風邪の句を作れるが、咳き込んでいては笛は吹けない。プロはそんなことは言っていない。プロはそんなことは言っていない。素人の私は体が受け付けない。それから俳句はどこでも作れるが、笛はかなり響くので、部屋を閉め切って吹かないといけない。

旅先で吹きたいと思ひ、観光客の少なそうな海岸に行ったのだが、サーファーが多くてちょっと恥ずかしかった。先日近所の川の河口で吹いてみたら(無人だった)、とても気持ちが良かった。笛の音とともに体が伸びて行って、世界に触れる感じ。そういう点は言葉で世界に触れる俳句と似ている。



題字デザイン・イラスト 福田美蘭